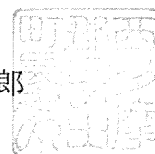




20日ま第5511号
平成20年10月22日

国土交通省道路局長 殿

日の出町長 青 木 國 太 郎



今後の道路行政についての意見の提出について

標記の件につきまして、別紙のとおり提出いたします。

道 路 と 生 活

道路は日本人の心の中にあるふるさとの風景のひとつであり、地域と地域を結び、人と人との交流を図る最大のライフラインであると確信しております。

我が日の出町は、平成14年3月29日待望久しかった首都圏中央連絡自動車道・日の出ICが開通となり、僅か1万6千人の山間部の町が俄かに活気があふれ、遂に日本一のショッピングセンター「イオンモール日の出」が誕生いたしました。

東京といえども森林が70%を占める町に、圏央道の開通により毎日2万人から5万人の利用客が訪れ、正に圏央道によって大きく発展と繁栄の道が拓かれました。

今、地方は平成の大合併により過疎が過疎を生み、地域の特性や人情豊かな気風が薄れて、人間味あふれる情緒が失われようとしております。快適な道路整備が全国津々浦々の地域において施工されることによって雇用が生まれ、資材を始めとする物流が活発となり、現下の厳しい経済の転機ともなり、地方の活性化と再生により夢とロマンが生まれることが必要であります。

道路は、全国の地域をネットワークで結ぶ政治・経済・文化の原点であり、都会であろうと地方の田舎であろうと道路の果たしている役割はあらゆる分野に及び、国や都道府県道はもとより市道や町村道などを疎かにすることは21世紀の国土建設にとって大きな損失であり、百年の大計を誤ることになると確信しております。

以上の視点から道路特定財源は安易に一般財源化するようなことがあってはなりません。

道路こそ、国土建設の最重要課題であることを肝に銘じて、国家百年の大計として国を挙げて取り組んでいただくことを声を大にして叫ぶものであります。

平成 20 年 10 月 22 日

日の出町長

青 木 國 太 郎